

産業連関表の中で使われている用語について、簡単に説明します。

産業連関表（I - O）

一定地域（県）において一定期間（通常は1年間）に行われた財貨・サービスの産業間の取引、各産と最終需要者（家計など）の間の取引及び地域間の取引（移輸出入）を一覧表にしたものです。

英語で「Input-Output Tables」と呼ぶことから、略してI - O（アイ・オー）もしくは、I - O表とも呼ばれています。

県内生産額（CT）

一定の期間（通常1年間）の県内の生産活動によって生み出された財貨とサービスの総額のことを指します。

英語で「Control Totals」と呼ぶことから、頭文字をとってCT（シーティー）とも呼びます。また、産業連関表では次のような関係があります。

$$\begin{aligned} \text{(タテ方向)県内生産額} &= \text{中間投入額} + \text{粗付加価格額} \\ \text{(ヨコ方向)県内生産額} &= \text{中間需要額} + \text{最終需要額} - \text{移輸入額} \end{aligned}$$

投入、産出

生産や生活のために、財やサービス（商品）を購入、消費することを投入（Input）、商品の販売を産出（Output）と言います。

産業

産業連関表でいう産業とは、商品（財・サービス）の品目ごとの生産活動を意味しています。

財、サービス

産業連関表で扱っている商品（生産物）は、大きく財とサービスに分けられます。

財とサービスの分け方は、考え方によって多少の相違がありますが、商業や運輸といった流通経路を通して消費者にわたる有形の商品が財、役務の提供などの無形の商品がサービスになります。

アクティビティ・ベース

部分分類の基準の1つで、生産活動単位と呼ばれ、同じ種類の生産活動を統一して扱います。いわゆる、商品分類に近い概念です。

したがって、同一事業所内で2つ以上の生産活動が行われている場合、原則としてそれぞれの生産活動ごとに分類します。

プロダクト・ミックス

産業連関表の部門分類は、何種類かの商品を統合したものであり、同一部門に投入購入構造や単位の異なったいくつかの商品が格付けられています。これをプロダクト・ミックスと言います。

生産者価格、購入者価格

生産物の価格で、生産者の出荷価格が生産者価格、生産者から消費者の手に渡る間の、商業マージンと運賃が加算された価格が購入者価格になります。

総需要、総供給

総需要は、県内で生じた需要と、県外で生じた県内生産物に対する需要との総和になります。

県内需用と移輸出に分けられ、供給側から見ると県内生産と移輸入と言うことになり、つまりは総供給と同じになります。

中間需要、最終需要

需要のうち、原材料などとして他の商品の生産のために加工、消費されるものが中間需要であり、生活のうえでの個人消費（家計消費）や、建物、機械などの設備投資等が最終需要になります。

県内では消費されないという意味で移輸出も最終需要となります。

内生部門、外生部門

産業連関表の中間需要と中間投入の部門が内生部門で、いわゆる産業部門となります。

また、それ以外の最終需要部門と粗付加価値部門を外生部門と言います。

中間投入、粗付加価値

生産物を作る（生産活動）ためには、購入した原材料等を加工、消費したり、サービスの提供を受けたりしますが、その費用を中間投入と言います。

また、生産物を他へ販売する金額と中間投入額には差がありますが、その差を粗付加価値といい、人件費（雇用者所得等）や減価償却費などに充てられ、残りがあれば利益となります。

中間投入と中間需要は同じものになります。

雇用者所得

民間及び政府などにおいて雇用されている者に対して、労働の報酬として支払われる現金、現物のいっさいの所得を指します。

営業余剰

各産業部門の営業利潤、支払利子などからなり、個人業者や家族従業員の所得も含まれます。

移輸出、移輸入、県際収支

県内で生産された商品が県外へ販売されることが移輸出であり、国内への移出と国外への輸出からなります。

県外で生産された商品を県内へ購入してくることが移輸入であり、国内から移入と国外からの輸入からなります。

移輸出額と移輸入額の差し引きが県際収支になります。

移輸出率、移輸入率、自給率

県内生産額に対する移輸出額の割合を移輸出率と言います。

県内需用に対する移輸入の割合を移輸入率（移輸入係数）といい、その逆で県内生産物の割合が自給率となります。

県内自給率

県内需用における「県内で生産された財やサービス」の割合のことです。

投入係数

各産業がそれぞれの産業物を生産するのに使用した原材料、燃料等の投入額をその産業の県内生産額で除したものであり、生産原単位に相当します。つまり、生産物ごとに1年間の産業額とその費用の内訳を構成比にしたものです。

投入係数を産業別に計算して一覧表にしたものが「投入係数表」です。

逆行列係数

ある産業に対して1単位の需要が発生した場合、各産業の生産が究極的にどれだけ必要になるかという生産波及の大きさを示す係数です。

逆行列係数の型には、県外からの移輸入を考慮しない封鎖経済型と、投入係数と移輸入係数を使用して求めた開放的経済型があります。一般的に、分析計算には実態に即した開放経済型が用いられます。

列和、行和

逆行列係数表の縦の合計を列和といい、その産業に対する1単位の最終需要が引き起こす、全産業への波及の大きさを示しています。

同じく横の合計を行和といい、他の産業に1単位ずつ最終需要が生じた場合の、その産業への波及の大きさの合計を示しています。

影響力係数、感応度係数

各産業別の逆行列係数の列和を、全産業の単純平均と比較したものが影響力係数であり、同じく各産業別の逆行列係数の行和を、全産業の単純平均と比較したものが感応度係数です。

県内歩留まり率、県外流出率

逆行列係数の封鎖経済型と開放経済型を比較して、本来生じるはずの波及効果のうち県内に生じるものの割合が県内歩留まり率、移輸入を通じて県外へ漏れ出したものの割合が県外流出率です。

特化係数

ある産業の県内産業全体に占める構成比が、同じ産業の全国での構成比の何倍になるかを示したものです。

県内産業で、その産業が全国平均よりどれだけ特化しているかを示します。

生産誘発額、粗付加価値誘発額、移輸入誘発額、就業者誘発数

民間消費や移輸出などの最終需要が直接・間接に誘発した県内生産額、粗付加価値額、移輸入額、就業者数を示します。

生産誘発依存度、粗付加価値誘発依存度、移輸入誘発依存度、就業者誘発依存度

各産業の生産などが、民間消費や移輸出など、どの最終需要に誘発されたか（生産などが、どの最終需要に依存しているか）の割合を表します。

生産誘発係数、粗付加価値誘発係数、移輸入誘発係数、就業者誘発係数

民間消費や移輸出などの最終需要が、直接・間接に誘発した県内生産額などの金額が、もとの最終需要に対してどれくらい大きくなるかの倍率を表します。（就業者は、百万円当たりの人数）

1単位の最終需要が発生した場合に誘発される生産などの大きさを表します。

総合粗付加価値係数、総合移輸入係数、総合就業係数

各産業の県内生産物に対する1単位の需要が、直接・間接に引き起こす全産業の生産に伴う粗付加価値、移輸入、就業者の大きさ(倍率)を表します。（就業者は、百万円当たりの人数）

生産で言えば逆行列係数の列和に相当します。

個別粗付け加価値係数、個別移輸入係数、個別就業係数

各産業別の粗付加価値率（生産額に占める粗付加価値の割合）、移輸入率（県内需用に占める移輸入の割合）、生産額1単位当たりの就業者数のことを表します。総合に対して個別を付けて区別しています。

生産波及効果

ある産業に対する最終需要の増加が産業全体の生産活動に与える影響をいい、産業連関分析では、県内需要額に開放経済型の逆行列係数を乗じて算出しています。

直接効果

ある産業の需要が新たに発生（新規需要）することによって、県内産業部門に直接に生産を誘発する効果のことです。なお、県内の自給率を考慮に入れる場合は、新規需要に県内自給率を乗じる形で直接効果を求めます。

第1次波及効果

直接効果に必要な中間投入がもたらす関連産業の生産波及のことで、直接効果に逆行列係数の列和を乗じたものが、直接効果と第1次波及効果の合計値になります。

第2次波及効果

直接効果と第1次波及効果によって生み出された粗付加価値の一部（雇用者所得）が家計消費にまわり、新たな需要となって誘発される消費財関連の生産波及のことです。なお、雇用者所得のうち消費に回る割合を算出するためには、家計調査の平均消費性向を用います。

平均消費性向

雇用者所得のうち、貯蓄等に回らず消費支出される平均的な割合です。

総合波及効果

直接効果、第1次波及効果、第2次波及効果の合計のことを指します。

雇用誘発効果

最終需要（消費、投資及び移輸出）により、誘発された雇用者数のことです。

93SNA

A System Of National Accounts 1993 の略で、経済のフローとストックの記録を体系化し、かつ統合するための包括的で詳細な仕組みを提供する国連提案の国際標準方式のことです。

1968年の国連勧告による体系を基本としてSNAが記録されてきた（68SNA）が、1993年に国連より93SNAの方式が提案されました。